Ｒ８　年度　学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	国語・論理国語（普・理）	単位数	2	担当者	酒井

１、教科書・副教材

高等学校論理国語（第一学習社）　　新訂国語図説六訂版（京都書房）
核心漢字 2500＋語彙 1000（尚文出版）　現代文キーワード読解改訂版（Ｚ会）　近現代文学コレクション（第一学習社）

２、科目の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力の育成を目指す。
(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。
(2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。
(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手として自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

３、学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考査範囲
前期	4月 5月 6月 7月 8月 9月	①金森修「人間という中心と、それよりも〈軽い命〉」 ②川本玲子「ジェンダー化された身体の行方」 ③長谷川眞理子「ヒトの進化と現代社会」 ④浜田寿美男「身体の個別性」 ⑤西谷修「いのちのかたち」 ⑥大澤真幸「リスク社会とは何か」 ⑦河野哲也「コスモポリタニズムの可能性」	①具体と抽象の関係を整理して論理構成を把握し、筆者の述べる人間観を理解する。 ②③関連するテーマの文章を読み比べ、書き手の立場や目的を考えながら内容を理解する。 ④ピアジェの「自己中心性」や河上肇の「利他性」と比較しながら、筆者が指摘する「本源的自己中心性」を理解する。 ⑤主張に説得力を持たせるための論理展開を捉え、筆者の抱く「いのち」の概念について考察する。 ⑥リスク社会の特徴を捉え、そのような社会での人間のありようについて考える。 ⑦「コスモポリタニズム」の定義や筆者の主張を理解し、グローバル社会に生きる者として問題意識を持つ。	35	①②③④ ⑤⑥⑦
後期	10月 11月 12月～3月	⑧中村雄二郎「目に見える制度と見えない制度」 ⑨丸山真男「『である』ことと『する』こと」 入試問題演習	⑧筆者の論理展開を支える文章表現上の工夫を理解して主張を捉え、身の回りの制度について考える。 ⑨具体例と主張との関係、段落相互の関係を把握し、民主主義社会のあり方について理解を深める。	35	⑧⑨

４、評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	説明的文章や実用的文章等を正しく読み解き、実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けることができる。	定期テスト、小テスト
思考・判断・表現	多種多様な文章を通して、多角的なものの見方・考え方、創造的に考える力を養うとともに、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	定期テスト、成果物（作成物や発表等）
主体的に学習に取り組む態度	自らの力を伸ばすために、主体的に学ぼうとする態度を養うことができる。	出席、提出物、授業態度や取り組み

５、学習にあたっての注意とアドバイス

・客観的に本文の主旨（筆者の意図）を理解する習慣をつけましょう。
・文章の構成を意識し、段落ごとの役割を理解するよう努めましょう。
・辞書や漢字練習帳を繰り返し開いて、語彙力定着に努めましょう。
・普段から様々な文章に親しむと共に、常に身の回りの事象に対して興味関心を持って過ごすよう心がけましょう。

Ｒ８　年度　学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	国語 ・ 論理国語 （森・イ）	単位数	2	担当者	丸山

１、教科書・副教材

新編論理国語（東京書籍）　新訂国語図説（京都書房）　常用漢字ダブルクリア別冊（尚文出版）
基礎からの国語表現の実践　2訂版　（啓隆社）

２、科目の目標

・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。
・様々な文章の読解を通し、論理的に考え、表現できる能力を養う。

３、学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考査範囲
前期	4月 5月 6月	【発表】１分間スピーチ ①評論「最初のペンギン」 ②評論「豊かさと生物多様性」	・話す態度と聞く態度を振り返る。 ①筆者の考えを手がかりに、自分の生き方について考える。 ②論の展開に注意して読み、生物多様性の重要性と課題について理解を深める。	35	①②
	7月 8月 9月	【提案】企画書の作成 ③評論「鏡としてのアンドロイド」	・自分の意見により説得力や魅力を持たせる方法を学ぶ。 ③アンドロイド研究を踏まえた評論を読み、人間に対する筆者の考えを捉える。		③
後期	10月 11月 12月	④評論「言葉は『ものの名前』ではない」 ⑤評論「もう一つの知性」	④言語と認識の関係を具体例からとらえ、言葉の働きについて考える。 ⑤科学的思考とは異なる思考の在り方を理解し、現代社会を生きるに必要な態度について考える。	35	④⑤
	1月 2月 3月	⑥評論「未来のありか」 【表現】高校生活を振り、自分の未来を思い描く。	⑥小見出しを参考にして各部分の内容と関係を読み取り、未来とは何かについて考える。 ・高校生活を振り返り、自己の変化に目を向け、将来の姿にどうつながるのか考える。		⑥

４、評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	論証や学習のために必要な幅広い知識・技能を身につける。	定期テスト、小テスト
思考・判断・表現	読むこと、書くことを通し論理的・多面的に思考し表現する力を鍛える。	定期テスト、レポート、作成物、発表
主体的に学習に取り組む態度	自らの力を伸ばすために、自ら試行錯誤して学ぼうとする態度を養う。	出席、提出物、授業態度

５、学習にあたっての注意とアドバイス

・漢字力、語彙力定着のために、辞書を活用しましょう。
・授業での学習活動では、集中して読んだり考えたりして積極的に取り組みましょう。
・提出物に関しては、期限などの指示をよく聞き、提出期限を必ず守りましょう。
・日常より言葉を通して積極的に他者や社会と関わろうとする意識を持ちましょう。

Ｒ８　年度　学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	国語 ・ 古典探究（普）	単位数	3	担当者	丸山・原

1，教科書・副教材

『高等学校 古典探究　古文編・漢文編』(第一学習社)、　『新訂国語図説』(京都書房)
『解釈のための　必携　古典文法』(啓隆社)、　『Key&Point 古文単語 330』(いいずな書店)
『新明説漢文』(尚文出版)、　『SPEED 攻略 10 日間 国語 和歌』(Z 会)　「１日１講　古典探究②」(三省堂)

2，科目の目標

・単語力、古典文法や漢文の句法、古典常識等の知識を反復学習し、総合的な読解力を養う。
・古典についての理解や関心を深めることにより、人生を豊かにする態度を育て、学習に主体的に取り組むことで、ものの見方、感じ方、考え方を広くする。

3，学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考査範囲
前期	4月 5月 6月	①『大鏡』 「三舟の才」 ②漢詩（抜粋） ③「吾が舌を視よ 尚ほ在りや不や」 『張儀列伝』	①歴史物語の列伝に記載されたエピソードを読み、歴史に残された人物の姿に触れる。 ②漢詩の基本事項を再確認するとともに、それぞれの詩に読み込まれた心情や情景を味わう。 ③遊説家が活躍した時代背景を知り、張儀の行動や心情を読み取る。	53	①②
	7月 8月 9月	④『源氏物語』 「紫の上の死」	④複数の登場人物の人柄を整理し、風景描写の効果や和歌に込められた思いを読み取ることで、丁寧に心情を把握する。		③④
後期	10月 11月	問題演習	演習問題中心の授業となる。	52	⑤⑥
	12月 1月 2月 3月	問題演習	演習問題中心の授業となる。		

4，評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深める。	定期テスト、小テスト
思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、ものの見方、感じ方、考え方を伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。	定期テスト、提出課題
主体的に学習に取り組む態度	自らの力を伸ばすために、試行錯誤して学ぼうとする態度を養う。また言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言葉を通して積極的に他者や社会に関わろうとする。	出席、提出物、授業への取り組み

5，学習にあたっての注意とアドバイス

・繰り返し音読し、古文や漢文のリズムに慣れましょう。
・必ず予習（筆写・語句の意味調べ・品詞分解・書き下し文の作成・口語訳等）をして授業に臨みましょう。予習と復習の繰り返しによって語彙量を増やし文法事項や句法を自分のものにしましょう。

Ｒ８　年度　学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	国語 ・ 古典探究（理）	単位数	2	担当者	丸山

1，教科書・副教材

『高等学校 古典探究　古文編・漢文編』(第一学習社)、　『新訂国語図説』(京都書房)
『解釈のための　必携　古典文法』(啓隆社)、　『Key&Point 古文単語 330』(いいずな書店)
『新明説漢文』(尚文出版)、　『SPEED 攻略 10 日間 国語 和歌』(Z 会)

2，科目の目標

・単語力、古典文法や漢文の句法、古典常識等の知識を反復学習し、総合的な読解力を養う。
・古典についての理解や関心を深めることにより、人生を豊かにする態度を育て、学習に主体的に取り組むことで、ものの見方、感じ方、考え方を広くする。

3，学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考査範囲
前期	4月 5月 6月	①『大鏡』 「三舟の才」 ②漢詩（抜粋） ③「吾が舌を視よ 尚ほ在りや不や」 『張儀列伝』	①歴史物語の列伝に記載されたエピソードを読み、歴史に残された人物の姿に触れる。 ②漢詩の基本事項を再確認するとともに、それぞれの詩に読み込まれた心情や情景を味わう。 ③遊説家が活躍した時代背景を知り、張儀の行動や心情を読み取る。	35	①②③
	7月 8月 9月	④『源氏物語』 「紫の上の死」	④複数の登場人物の人柄を整理し、風景描写の効果や和歌に込められた思いを読み取ることで、丁寧に心情を把握する。		④
後期	10月 11月	問題演習	演習問題中心の授業となる。	35	
	12月 1月 2月 3月	問題演習	演習問題中心の授業となる。		

4，評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深める。	定期テスト、小テスト
思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、ものの見方、感じ方、考え方を伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。	定期テスト、提出課題
主体的に学習に取り組む態度	自らの力を伸ばすために、試行錯誤して学ぼうとする態度を養う。また言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言葉を通して積極的に他者や社会に関わろうとする。	出席、提出物、授業への取り組み

5，学習にあたっての注意とアドバイス

・繰り返し音読し、古文や漢文のリズムに慣れましょう。
・必ず予習（筆写・語句の意味調べ・品詞分解・書き下し文の作成・口語訳等）をして授業に臨みましょう。予習と復習の繰り返しによって語彙量を増やし文法事項や句法を自分のものにしましょう。

Ｒ８ 年度　学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	国語 ・ 古典研究（理数科・文系）	単位数	2	担当者	丸山

1，教科書・副教材

『１日１講　文学・古典』（三省堂）　『わかる・読める・解ける Key&Point 古文単語 330』（いいずな書店）
『新訂国語図説』（京都書房）　『解釈のための必携古典文法』（啓隆社）　『必携 新明説漢文』（尚文出版）
『SPEED 攻略 10 日間 国語 和歌』（Z 会）　『１日１講　文学・古典』（三省堂）

2，科目の目標

・1、2 年次の学習の成果を踏まえ、古語、古典文法や漢文の句法の確認および用例に習熟する。
・「古典探究」の学びを土台に、受験にも対応できるより深い古典演習を行う。

3，学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考査範囲
前期	4月 5月 6月 7月 8月 9月	①古文演習 ・田舎草子「**鷺烏**巧拙」 ・枕草子「里にまかでたるに」 ・源氏物語「蓬生」 ②評論演習 ・末木文美子『仏教から読む古典文学』 ・鈴木宏子『「古今和歌集」の想像力』 ・入口敦志『漢字・カタカナ・ひらがな―表記の思想』	○演習 ・文章を時間内に読み、要旨を捉える力を身につける。 ・文法事項に注意して文章を読解する力を身につける。 ・古文や漢文を取り扱った評論を読むことで、幅広く古典作品に対する見識に触れ、新たな見方を得る。 ・古典作品の時代的背景や当時の文化などへの理解を深める。 ・古典文学史の知識を深める。 ○速読ドリル ・文章を時間内に読み、要旨を捉える力を身につける。 ・基礎的な文法事項を復習する。	35	総合問題１
後期	10月 11月 12月 1月 2月 3月	・小川剛生『徒然草をよみなおす』 ・榎本理恵『本居宣長から教育を考える　声・文学・和歌』 ・川合康三『山上憶良と中国の詩』 ○総合演習		35	総合問題２

4，評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	古典の語彙や、我が国の言語文化に関する事項について理解する。	定期テスト・小テスト
思考・判断・表現	読むこと、書くことを通し論理的・多面的に思考し表現する力を鍛える。	定期テスト・提出課題
主体的に学習に取り組む態度	自らの力を伸ばすために、試行錯誤して学ぼうとする態度を養う。	出席、提出物、授業への取り組み

5，学習にあたっての注意とアドバイス

・必ず予習をして授業に臨むのはもちろん、演習した内容を必ず復習しましょう。予習と復習の繰り返しによって語彙量を増やし文法事項や句法を自分のものにしましょう。
・言語文化に対する関心を深め、総合的な国語力の向上に努めましょう。

Ｒ８　年度　学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	国語・古典講読（普通科・文系）	単位数	2	担当者	酒井

１、教科書・副教材

高等学校古典探究　古文編・漢文編（第一学習社）、新訂国語図説六訂版（京都書房）、新明説漢文（尚文出版）、
解釈のための必携古典文法（啓隆社）

２、科目の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力の育成を目指す。
(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

３、学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考査範囲
前期	4月	①鴨長明「方丈記－ゆく川の流れ」 鴨長明「方丈記－安元の大火」	①時代の転換期に作者が抱いた、人の世に対する思いを通して、ものの見方や考え方を深める。	35	①❶②
	5月	❶杜甫「石壕吏」	❶構成に留意して作品を鑑賞し、詩に表れた作者の思いや、詩に描かれた人物の思いを読み取る。		
	6月	②鴨長明「発心集－叡実、路頭の病者を憐れむ事」	②仏教説話に取り上げられた人物の論理と行動を読み解き、編者が語り伝えようとした価値について考察する。		
	7月	❷「背水之陣」	❷史伝を読んで登場人物の言動を押さえ、韓信のとった作戦の巧みさを理解する。		❷③❸
	8月	③「宇治拾遺物語－袴垂、保昌に合ふ事」	③展開や表現に即して袴垂の心理を追い、そこから浮かび上がる保昌の人物像を理解する。		
	9月	❸「不顧後患」	❸古代における臣下の立場を理解するとともに、呉王に対する少孺子の説得の巧みさを読み取る。		
後期	10月	④「とりかへばや物語」 ❹陶宗儀「賢母辞拾遺」	④王朝文学の系譜に連なるさまざまな物語の中から、特異な設定の作品を読んで、古典への興味を広げる。 ❹拾った大金をめぐる拾い主と落とし主の心理を読み取り、この騒動を裁いた聶以道の判決の内容を理解する。	35	④❹⑤
	11月	⑤紫式部「源氏物語－須磨の秋」	⑤長編物語としてのストーリーをたどりながら、「源氏物語」の話の展開のしかたや心理描写の巧みさを捉える。		
	12月 ～3月	入試問題演習			

４、評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、伝統的な言語文化に対する理解を深めることができる。	定期テスト、小テスト
思考・判断・表現	論理的に考える力や共感力、想像力を養うとともに、先人の考え等に触れ、自らの思いや考えを広げたり深めたり、伝え合ったりすることができる。	定期テスト、成果物（作成物や発表等）
主体的に学習に取り組む態度	自らの力を伸ばすために、主体的に学ぼうとする態度を養うことができる。	出席、提出物、授業態度や取り組み

５、学習にあたっての注意とアドバイス

・授業を大切にし、扱う文章やテーマに対して積極的に読んだり考えたりしましょう。
・自分の考えをわかりやすく述べたり、他者の考えを尊重したりして、事柄に対する理解を深めるように努めましょう。
・古典単語や文法事項、漢文の句形等を覚えるとともに、それらを活用しながら文章読解に励み、実践力を育みましょう。
・普段から様々な文章に親しみ、身のまわりの事象に対して興味関心をもって過ごすように心がけましょう。

Ｒ８　年度　学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	国語 ・ 応用国語（森・イ）	単位数	2	担当者	神田

１、教科書・副教材

新訂国語図説（京都書房）　（※教科書は使用しない。必要に応じ担当者が教材を作成する。）

２、科目の目標

・与えられたテーマを的確に捉え、適切な情報をもとに考察し、論理的に表現する力をつける。
・多くの課題作文を通じ、時間や時数の制限に答えられる文章表現を身につける。
・相手や場面に応じた会話や議論の進め方を身につける。

３、学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考査範囲
前期	4月 5月 6月 7月 8月 9月	「表現力を培う」 ①文章の基礎 ・言葉・表現への関心 ・考えるということ ②文章を読み取る ・文章の構成・要約 「表現力を培う」 ③小論文・レポート入門 ④自己 PR と面接	①国語で「表現」することのへの関心を養う。 表現の基礎となる「自分の考え、意見」を持つことについて考える。 ②的確に主題を読み取る力をつける。 要約する力､データを的確に読み取る力を養う。 ③④履歴書、志望理由書、課題作文などの書き方を学ぶ。 効果的な自己 PR の仕方について考える。 自分の魅力や人柄を伝えるための話し方を探る。	35	実施なし （年間を通し、レポートや作品の提出､発表等に基づき評価する。）
後期	10月 11月 12月 1月 2月 3月	「表現を楽しむ」 ⑤話すこと、聞くこと ・ショートスピーチ ・インタビュー ⑥さまざまな表現 ・創作文 「表現力を培う」 ⑦実用的な表現	⑤声で伝える力とコミュニケーション力を高める。 ⑥自分の考えや思いを創作に結実させることで､言葉の魅力や可能性に迫る。 ⑦さまざまな通信文の作法､電話の作法､場面に応じた話し方について理解を深める。 **※年間を通し、外部のコンクール等に応募することを目指す。**	35	

４、評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、それらを的確に使用する力を養う。	小テスト
思考・判断・表現	読むこと、書くことを通し、論理的・多面的に思考・判断し、表現する力を養う。	レポート、作成物、発表
主体的に学習に取り組む態度	自らの力を伸ばすために､試行錯誤して学ぼうとする態度を養う。	出席、提出物、授業態度

５、学習にあたっての注意とアドバイス

・個別作業が中心となるので、能動的に授業に参加しましょう。
・作品提出の期日を厳守しましょう。
・表現力や語彙力を磨くために、日常的に新聞や書籍に触れるよう心がけましょう。